

令和5年9月29日

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果について【中学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るためには、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本市立中学校生徒の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

参考：「全国学力・学習状況調査」について

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善（学力向上PDCA）サイクルを確立する。

2 調査期日・調査対象 令和5年4月18日（火） 第3学年



3 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ① 国語
- ② 数学
- ③ 英語

(2) 質問紙調査

- ① 生徒に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関すること
- ② 学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関すること

4 本市の参加状況

- (1) 学校数 宇都宮市立中学校 25校（25校中）
- (2) 生徒数 国語 3,916人 数学 3,912人 英語 3,912人

5 留意事項

(1) 調査結果について

本調査は対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を分かりやすく示すために、教科全体及び分類・区分別の平均正答率、正答数度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
 - ・ 「平均正答率」、「正答数の分布」について状況を記載した。
 - ・ 「傾向と課題」は、分類・区分ごとに、良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。
 - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを分類・区分ごとに記載した。

(3) 質問紙について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び全国との比較において本市の特徴が見られる質問等を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、クロス集計結果も踏まえた指導の留意点、改善のポイントを併せて記載した。

1 中学校第3学年 国語

平均正答率

(%)

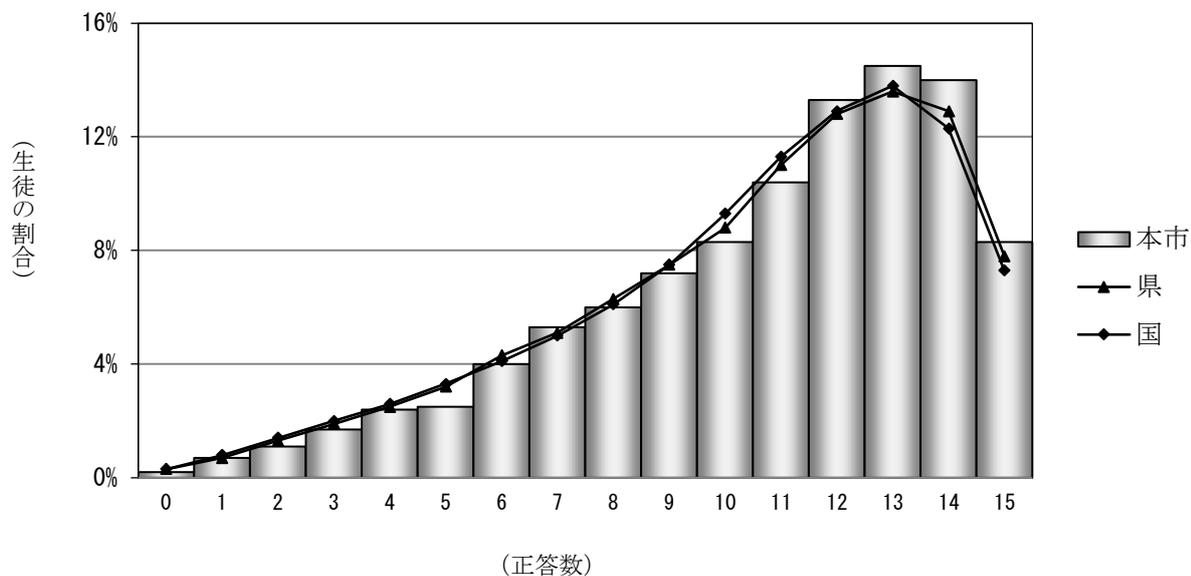
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立）	全国（公立） b	差 a - b
国語	71.3	70	69.8	1.5

分類・区別平均正答率

(%)

分類		区分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)
学習指導 要領の 内容	知識 及び 技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	70.5	69.3	67.5	3.0
		(2)情報の扱い方に関する事項	65.7	63.8	63.4	2.3
		(3)我が国の言語文化に関する事項	76.6	76.1	74.7	1.9
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	82.6	82.1	82.2	0.4
		B 書くこと	64.1	62.4	63.2	0.9
		C 読むこと	65.3	63.9	63.7	1.6
評価の観点	知識・技能	71.7	70.6	69.4	2.3	
	思考・判断・表現	70.8	69.6	69.7	1.1	
	主体的に学習に取り組む態度					

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (全国平均との差 3.0 ポイント)

- 漢字を書く設問の正答率は 50.4%で、全国平均を 6.5 ポイント上回る。文脈に即して漢字を正しく書くことに良好な状況が見られる。

情報の扱い方に関する事項 (全国平均との差 2.3 ポイント)

- 内容のまとまりで文章を二つに分け、見出しを書く設問の正答率は 65.1%で、全国平均を 3.3 ポイント上回る。具体と抽象など情報と情報との関係について理解することに良好な状況が見られる。

我が国の言語文化に関する事項 (全国平均との差 1.9 ポイント)

- 古典の原文に対応する言葉を現代語の文章から抜き出す設問の正答率は 75.3%で、全国平均を 1.2 ポイント上回る。古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることに良好な状況が見られる。

話すこと・聞くこと (全国平均との差 0.4 ポイント)

- インタビューでの質問について、述べ方の工夫や意図を捉える設問の正答率は 77.2%で、全国平均を 0.6 ポイント上回る。話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することに対する理解に良好な状況が見られる。

書くこと (全国平均との差 0.9 ポイント)

- レポートの下書きの一部を直した意図として適切な説明を選ぶ設問の正答率は 55.6%で、全国平均を 1.3 ポイント上回る。読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えて書くことに良好な状況が見られる。
- 同設問において、誤答を選んだ生徒は、レポートの下書きの一部を直した意図を適切に捉えられず、回答が分散するなど課題が見られる。

読むこと (全国平均との差 1.6 ポイント)

- 文章の内容を捉える設問の正答率は 76.3%で、全国平均を 2.1 ポイント上回る。文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

言葉の特徴や使い方に関する事項

漢字を正しく使う力を更に高めるためには、漢字による熟語などの語句の使用や、同音異義語に注意して書くなど、漢字のもつ意味を考えて使うとともに、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにすることが重要である。

書くこと

設問では、興味をもったことについて調べたり考えたりしたことをレポートにまとめて書く場面を設定しているが、レポートを書く際には、読み手の立場に立って、語句の用法や叙述の仕方などを確かめたり、具体と抽象など情報と情報との関係に注意したりしながら文章を整えるとともに、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことが重要である。

そのため、自分の考えを伝えたり印象付けたりする上で、書いた文章の表現がどのように働いているかなどを確かめ、誤解がない表現やより効果的な表現にしていくために、推敲や共有する場面を意図的に設定することが効果的である。

2 中学校第3学年 数学

平均正答率

(%)

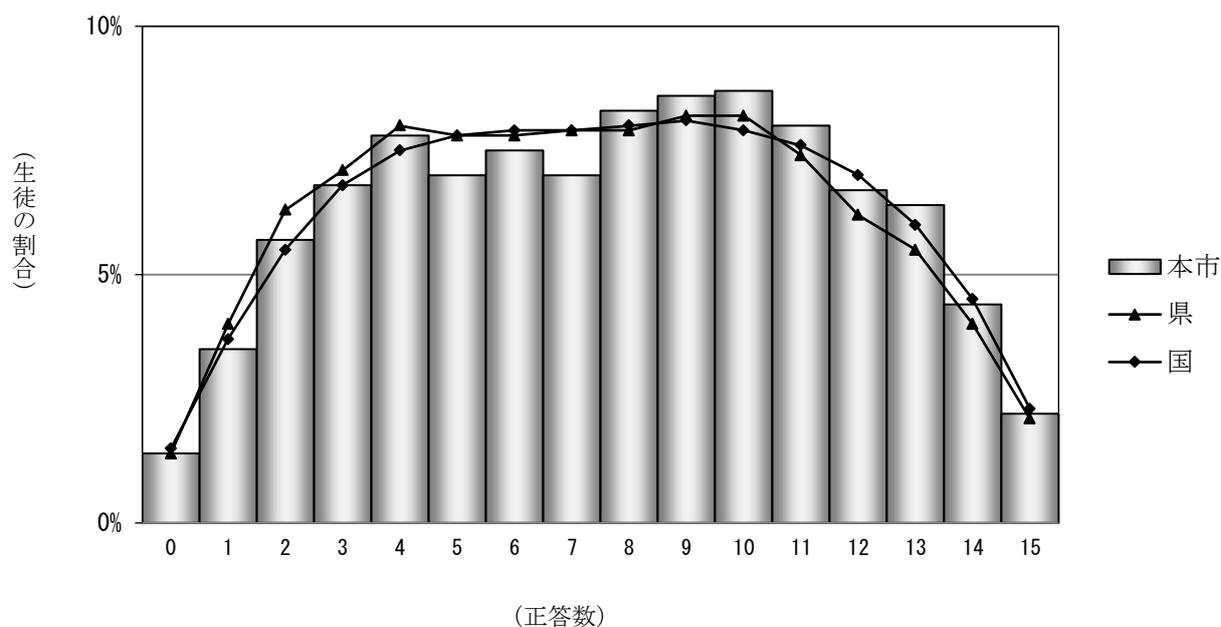
	宇都宮市(市立) a	栃木県(公立)	全国(公立) b	差 a-b
数 学	51.5	50	51.0	0.5

分類・区別平均正答率

(%)

分類	区分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国(b)	差(a-b)
学習指導 要領の 領域	A 数と式	63.4	61.4	63.0	0.4
	B 図形	34.3	31.8	33.2	1.1
	C 関数	51.2	50.0	51.2	0
	D データの活用	49.4	48.2	48.5	0.9
評価の 観点	知識・技能	56.2	54.3	55.7	0.5
	思考・判断・表現	42.1	40.7	41.6	0.5
	主体的に学習に取り組む態度				

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

数と式 (全国平均との差 0.4 ポイント)

- 12 $(x/4+y/6)$ を計算する設問の平均正答率は 82.3%で、全国平均を 1.8 ポイント上回った。文字式の計算について良好な状況が見られる。
- -5, 0, 3, 4.7, 9 の中から自然数を全て選択する設問の平均正答率は 44.1%であり、全国平均より 2.0 ポイント下回る。自然数の意味理解について課題が見られる。

図形 (全国平均との差 1.1 ポイント)

- 空間における平面が 1 つに決まる場合について、正しい記述を選択する設問の平均正答率は 32.3%であり、全国平均より 1.9 ポイント上回る。空間における平面が同一直線上にない 3 点で決定されることへの理解に良好な状況が見られる。

関数 (全国平均との差 ±0 ポイント)

- 2 つの駅伝チームが走ったある地区の道のりと時間を示すグラフから、同じ道りに対する時間の差について、グラフのどの 2 点の x 座標の差として表れるかという設問の平均正答率は 58.4%であり、全国平均を 0.9 ポイント上回る。与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることにより良好な状況が見られた。
- グラフや式を用いて、一方の対象が、もう一方の対象に追いつくのがスタート地点からおよそ何 m の地点になるかを求める方法を説明する設問の平均正答率が 40.7%であり、全国平均を 2.1 ポイント下回る。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。

データの活用 (全国平均との差 0.9 ポイント)

- 女子 50m 自由形の記録の、最小の階級から 29.00 秒以上 30.00 秒未満の階級までの累積度数を求める設問の平均正答率は 48.1%であり、全国平均を 2.0 ポイント上回る。累積度数の意味理解に良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

数と式

数の範囲を正の数と負の数にまで拡張して、数の集合を捉え直す場面を設定し、自然数や整数の意味を理解できるようにすることが大切である。

そのためには、新しく捉え直した数の集合の定義に基づいて、様々な数の中から自然数や整数を判断する活動を取り入れることが考えられる。その際、小学校算数科においては、整数を 0 と正の整数を合わせたものとして捉えていたことを振り返り、中学校数学科では、負の整数を加えて、整数を、正の整数（自然数）、0、負の整数と捉え直し、整数の意味についての理解を深めることが有効である。

関数

関数の式やグラフを活用して日常生活の問題解決を図る学習においては、与えられた情報から事象の特徴を的確に捉え、表・図・式・言葉等で数学的に表現する活動を通して問題解決に取り組むことが重要である。

そのためには、表現した内容を伝え合うだけでなく、立式した目的やグラフにする意味などを明確にし、問題を焦点化したり、解決の方法を見通したりする活動を取り入れることも、筋道を立てて考える力を育むために効果的である。

3 中学校第3学年 英語

平均正答率

(%)

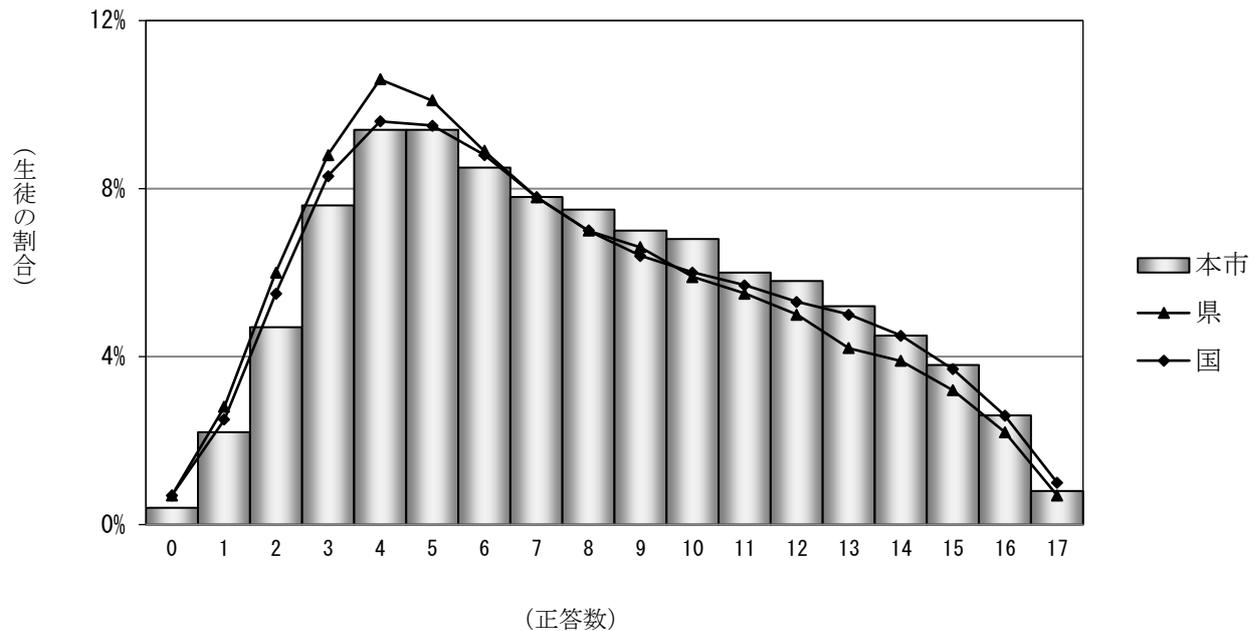
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立）	全国（公立） b	差 a - b
英 語	46.6	44	45.6	1.0

分類・区分別平均正答率

(%)

分 類	区 分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	60.2	56.7	58.4	1.8
	(2) 読むこと	51.8	49.4	51.2	0.6
	(3) 話すこと（やり取り）				
	(4) 話すこと（発表）				
	(5) 書くこと	24.2	21.2	23.4	0.8
評価の観点	知識・技能	53.1	49.1	51.5	1.6
	思考・判断・表現	39.4	37.6	38.8	0.6
	主体的に学習に取り組む態度				

正答数度数分布



傾向と課題 ○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの 下線部…「結果概要」との主な関連

聞くこと (全国平均との差 1.8ポイント)

- 買物の場面における会話を聞き，その内容を最も適切に表している絵を選択する設問の正答率は54.2%で，全国平均を4.4ポイント上回る。情報を正確に聞き取ることに良好な状況が見られる。

読むこと (全国平均との差 0.6ポイント)

- 状況を描写する英文を読み，その内容を最も適切に表しているグラフを選択する設問の正答率は58.3%で，全国平均を2.3ポイント上回る。情報を正確に読み取ることに良好な状況が見られる。
- 図書館について書かれた英文を読み，文中の空所に入る適切な語句を選択する設問の正答率は57.4%で，全国平均を2.4ポイント下回る。文と文との関係を正確に読み取ることに課題が見られる。

書くこと (全国平均との差 0.8ポイント)

- 与えられた英語を適切な形に変えたり，不足している語を補ったりして，会話が成り立つように英文を完成させる設問の正答率は43.0%で，全国平均を2.6ポイント上回る。未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことに良好な状況が見られる。
- 文脈を捉えて，会話が成り立つように英文を完成させる設問の正答率は18.3%で，全国平均を2.6ポイント下回る。会話の流れから時制を判断し，文法事項等を理解して，疑問詞を用いた疑問文を正確に書くことに課題が見られる。

指導の工夫・改善

読むこと

調査問題7(1)のように，日常的な話題について，短い文章の概要を捉えることは，人物の行動や心情の変化，全体のあらすじなど，書き手が述べていることの大まかな内容を把握することにより，書き手の意図や思いを捉えるために必要な技能である。概要を捉える際には，まとまりのある文章を最初から最後まで読み，特定の単語や文章など一部分にのみとられることなく，文と文の関係を考えながら読むことが大切である。

そこで，読む前に音声を聞かせたり，内容についてやり取りしたりするなどの工夫が必要である。また，手がかりとなる語句や表現を確認し着目させて読ませることや，図や表にまとめながら読ませることなど，内容を整理しながら読ませる指導が有効である。

書くこと

調査問題9(1)②のように，会話の流れから時制を判断し，基本的な語や文法事項等を理解して疑問文を書くことは，やり取りにおいて，情報を捉え整理したり確認したりしながら書き，正確に伝えるために必要となる。

疑問文は，語順や動詞の形が変化することが多いため，言語活動の中で何度も使用することで表現に慣れさせるとともに，教科書本文や別の場面でも，機会を捉えて文法事項等の確認を繰り返し行い，実際のコミュニケーションにおいて使えるようにすることが重要である。

4 中学校質問紙

【生徒質問紙の状況】調査結果（全80問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と5ポイント以上差があり本市生徒の特徴を表すものを取り上げた。
- ・ 肯定的な回答の割合は「当てはまる（している）」、「どちらかといえば当てはまる（している）」等と回答した割合の合計である。（*それ以外の選択肢等の場合）

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	全国平均との差
1	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	81.1%	8.5
2	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	83.2%	5.3
3	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	62.0%	7.0
4	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） * 2時間以上	48.0%	8.0
5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	92.3%	5.0
6	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	73.9%	7.5
7	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	77.1%	5.5
8	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） * 30分以上	25.5%	△2.9
9	新聞を読んでいますか * 週1回以上	8.0%	△0.1

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

授業や学習について (No. 1, No. 2)

- No. 1の肯定的回答の割合は、全国平均より8.5ポイント上回っている。各学校では、探究的な学習の中で、生徒が自ら進んで学習に取り組みながら、知識や技能を身に付けることができるよう学習活動を工夫するなど、主体的な学びの視点から、総合的な学習の時間の充実が図られていると考えられる。
- No. 2の肯定的回答の割合は、全国平均より5.3ポイント上回っている。各学校では、生徒同士が目標を共有したり、協働して解決方法を話し合ったりする活動を充実させるなど、対話的な学びの視点からの授業改善が進められていると考えられる。

家庭学習について (No. 3, No. 4)

- No. 3の肯定的回答の割合は、全国平均より7.0ポイント上回っており、No. 4について、2時間以上学習をしていると回答している生徒の割合は、全国平均より8.0ポイント上回っている。各学校では、課題の提示や計画の立て方など、家庭学習の習慣化に向けた具体的な指導が展開されていると考えられる。

自分自身のことについて (No. 5～7)

- No. 5, 6, 7の肯定的回答割合は、それぞれ全国平均より5.0ポイント、7.5ポイント、5.5ポイント上回っている。各学校では、教育相談の機会を大切にしながら、生徒理解を推進するとともに、生徒の生活や学習状況について、積極的かつ肯定的に評価し、教員の指導改善や生徒の学習改善に生かす取組が行われるなど、良好な学級経営を基盤とした、あたたかみのある授業が展開されていると考えられる。

学習環境について (No. 8, No. 9)

- No. 8について、30分以上読書をしていると回答している生徒の割合は、全国平均を2.9ポイント下回っている。読書活動は、言語能力や豊かな感性の育成にとって重要なものであるため、生徒が自主的・自発的に読書活動を充実させることができるよう、学校図書館が中心となり、学校と家庭が連携した指導を継続していくことが必要であるとされる。
- No. 9について、週1回以上新聞を読んでいると回答している生徒の割合は、全国平均を0.1ポイント下回り、平成26年度の調査と比べると15.0ポイント低くなっており、減少傾向が続いている。こうした状況を踏まえ、各教科等の授業では、新聞を適切に活用した学習活動を工夫するなど、情報活用能力の充実を図っていくことが必要であるとされる。

【学校質問紙の状況】

調査結果（全99問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と5ポイント以上差があり本市の特徴を表すものを取り上げた。
- ・ 肯定的な回答の割合は「行った」、「どちらかといえば行った」等と回答した割合の合計である。
(* それ以外の選択肢等の場合)

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	全国平均との差
1	調査対象学年の生徒は、授業において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	88.0%	6.4
2	調査対象学年の生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	100%	6.1
3	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	88.0%	6.9
4	調査対象学年の生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	100%	7.9
5	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	88.0%	6.9
6	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	100%	11.9
7	令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）	100%	18.9
8	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか	100%	1.7
9	前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	92.0%	25.2
10	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者との相互理解は深まりましたか	84%	4.7
11	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	100%	9.1

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

授業中の指導や生徒の学習状況について (No. 1 ~No. 4)

- No. 1, 2の肯定的な回答の割合は、それぞれ全国平均より6.4ポイント、6.1ポイント上回る。各学校では、学習指導要領の趣旨や内容についての理解が深まり、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、対話的で深い学びの視点に立った協働的な学習を推進するなど、教育内容や指導方法の改善及び充実が図られていると考えられる。
- No. 3, 4の肯定的な回答の割合は、それぞれ全国平均より6.9ポイント、7.9ポイント上回っている。各学校では、探究的な学習の中で、生徒が自ら進んで学習に取り組みながら、知識や技能を身に付けることができるよう学習課題や学習活動を工夫するなど、主体的な学びの視点から、学習指導の充実が図られていると考えられる。

研修など教職員の資質向上に関する状況について (No. 5)

- No. 5の肯定的な回答の割合は、全国平均より6.9ポイント上回る。各学校では、授業力や学級経営力等の資質・能力の向上を目指した取組が推進されていると考えられる。

学力・学習状況調査結果の活用について (No. 6, No. 7)

- No. 6, No. 7の肯定的な回答の割合はどちらも100%であり、それぞれ全国平均より11.9ポイント、18.9ポイント高く、上回り方が大きい。自校の調査結果について分析を進め、学校全体で成果や課題を共有するとともに、保護者等への公表にも取り組むなど、教育活動のさらなる充実のために活用する取組が推進されていると考えられる。

本市の推進する取組等について (No. 8 ~No.11)

- No. 8の肯定的な回答の割合は100%であり、全国平均より1.7ポイント上回っている。各学校では、教員が、一人一人の学びの成長を生徒に伝えるとともに、学んだ内容と社会とのつながりが感じられる授業が展開されていると考えられる。
- No. 9の肯定的な回答の割合は、全国平均より25.2ポイント高く、上回り方が大きい。小・中学校が連携を図り、義務教育9年間を見通した系統的な指導による確かな学力を育む教育が推進されていると考えられる。
- No.10の肯定的な回答の割合は、全国平均より4.7ポイント上回っている。各学校では、魅力ある学校づくり地域協議会との連携強化を図るなど、保護者や地域の方々と連携・協働した学校づくりが推進されていると考えられる。
- No.11の肯定的な回答の割合は100%であり、全国平均より9.1ポイント上回っている。各学校では、学校での学習を補充し、学習内容の定着が図られるよう、家庭学習の充実に向けた指導が推進されていると考えられる。

【生徒質問紙と教科の正答率のクロス集計の状況】

- ・ 学力層を上位から順に25%ずつ、4層（A-D層）に分け、各層の肯定的な回答の割合を基に意識と平均正答率との相関を分析している。
- ・ A-D層間の開きの大きい質問は、正答率の高い生徒ほど、肯定的に回答している傾向が見られる質問であり、平均正答率との関係があると考えられる。

＜A-D層の差が10ポイント以上のものから抜粋＞

No.	質問の内容	宇都宮市	
		A-D層の差	肯定的な回答割合
1	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	34.3	69.9%
2	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	32.6	63.1%
3	1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	30.1	70.7%
4	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	29.6	80.6%
5	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） * 2時間以上	27.1	48.0%
6	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか	25.2	73.4%
7	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	25.2	81.1%
8	読書は好きですか	22.4	69.3%
9	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	21.3	82.0%
10	1, 2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	18.5	76.5%
11	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	16.6	62.0%
12	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） * 2時間以上	12.4	34.6%
13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	12.3	80.7%
14	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く） * 100冊以上	11.7	28.9%
15	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	11.6	83.2%

傾向と考察及び指導の留意点

- ・ 指導の留意点等は、「➡」以下に示した。

授業での学習について

No. 1	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか
No. 4	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
No. 6	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか
No.13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

- ➡ 個々の児童の学習状況を丁寧に見取り、個に応じた適切な指導・支援を行いながら、発問の仕方や学習活動を工夫するなどして、生徒がじっくりと考え、まとめ、振り返る時間を確保するとともに、生徒が身に付けた知識及び技能を次の学習や生活につなげることができるよう活用の視野を広げたり、他教科等の内容との関連付けを自覚的に行えるよう促したりするなど、教師のコーディネート力が求められる。

言語能力・情報活用能力の育成について

No. 2	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
No. 3	1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
No. 7	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
No. 9	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

- ➡ 情報を収集し、読み取り、まとめる活動や文章の構想、個々の考えや意見の集約、発表等の活動については、1人1台端末を有効に活用した協働的な学習を推進するとともに、まとめたり、書いたりする課題などについては、これまでの実践とICTとの最適な組み合わせを十分に検討するなど、言語能力や情報活用能力の育成に係る取組の充実を図ることが必要である。

家庭学習の習慣化について

(* 回答の選択肢等が他とは異なる質問項目)

* No. 5	土曜日や日曜日などの学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか * 2時間以上
No.11	家で自分で計画を立てて勉強していますか (学校の授業の予習や復習を含む)
* No.12	学校の授業時間以外に、普段 (月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか * 2時間以上

- ➡ 家庭と連携して、生徒が節度をもった生活習慣を身に付けることができるよう指導に努めるとともに、学校全体の共通理解のもとに課題設定の方法や課題の内容、家庭学習の成果の点検・評価の仕方等を工夫し、生徒の自主的・自発的な取組を促していくことが大切である。